

編集後記

◆昨年6-8月号で遅れを取り戻した発行状況にまた遅れが出てきた。読者とくに購読者の皆様にお詫びしなければならない。原因は予定稿の遅れや不備にある。特集では一部の不備が編集計画全体に大きく影響することがあるので、誌面の構成はむろん印刷までの時間配分に、企画立案の段階から注意する必要がある。特集の提案や執筆に当たっては、これらの点に関し一層の配慮・協力をお願いしたい。

◆昨年掲載したある稿について、知人の大学教授から、編集部は内容をきちんとチェックしているのか、と厳しい批判を頂いた。私の担当号ではなかったので改めて読み返し、批判の主旨がよく理解できた。忠告に感謝し、今後に生かしたい。ただ、一般論ではあるが、編集部が個々の内容全てに精通することは大変難しい。批判があれば、それを「討論」のような形で寄稿して頂ければ幸いである。『読む人(読者)、書く人(筆者)、作る人(編者)』3者の交流で本誌が充実することを願っている。

◆最近口絵原稿が不足気味だ。1,2頁ものは掲載し易く、また誌面に変化を持たせられるので、編集部としては歓迎である。本誌のなかで口絵はよく読まれている頁のひとつである。どしどし投稿されたい。

◆「ユニークな地質系博物館」のシリーズに原稿を募集している。自薦他薦を問わないので、地道ながら積極的な取り組みの見られるものを紹介して頂きたい。

◆最近開設された大きな自然史系博物館を見学した。日本の博物館の貧しさが論じられてずいぶん時間が経つので、そうした議論を踏まえた充実ぶりが見られるのではないかと期待して出かけたのだが、その期待は完全に裏切られた。建物のために展示がある、というのが見学の第一印象である。個々の展示担当者は、所定の空間に展示物を収めるのに苦労したのではなからうか。巨額のお金を投じたであろう豪華な(?)建物にむしろ貧しい風景を見る思いがするのは私だけだろうか。「ユニークな地質系博物館」のシリーズに加えるのは難しい。

◆少々乱暴な比喩だが、本誌を含む当所の出版物は株式会社でいえば配当に当たる。株主は国民である。一人一人に直接届く配当ではないかも知れないが、教育や行政などを介して最終的には国民に還元されるべきものだろう。最近本誌の存在意義を所内で議論しようという動きがある。配当は必要かと社内で議論するようなものだ。その閉鎖的思考回路を読者諸氏はどう見るだろうか。(佐藤興平 記)

[誤植訂正]

- 1994年12月号, 「東アジアのパイロフィライト鉱床」, p. 44,
第2表 韓国の蠟石生産実績の鉱山名が2カ所正しく印刷されておりません。
鉱山名: 1, 大炫 ; 2, 大峴。
- 1994年12月号, 「花崗岩系列と非金属鉱物資源」, p. 15,
第3図 縦軸, 単位は10³トン, 上の2目盛の数字は1200と1000。

地質ニュース編集委員会

委員長: 小玉喜三郎

副委員長: 佐藤興平

幹事: 宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員: 今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

野田徹郎・吉井守正・豊 遙秋・佐藤岱生

顧問: 林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局: 総務部業務課広報係 (島山浩之・徳宿由美子)
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地 質 ニ ュ ー ス	第485号 1995年 1 月号
	定価 ¥ 770 千 実 費
1995年1月1日 発行	
編 集	工業技術院地質調査所
発 行 人	株式会社 実業公報社
	代表者 林 光生
発 行 所	株式会社 実業公報社
	東京都千代田区九段北1の7の8
	Tel. (03)3265-0951 (代表) 千 102
	振替口座 東京 00110-6-32466
	麹町局私書箱第21号
印 刷	小宮山印刷工業株式会社

©1995 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ